ひと、ひらき、きらめく

mumon welfare

特集 | 自然栽培

自然栽培で広がる人々の多様な可能性

むもんビッグニュース

ヴェルブリッツ 畑でラグビー

教えて！ドクターM

「ミツバチ」について

2018 Summer

無門福祉会広報 vol.132
〔発行〕社会福祉法人無門福祉会
〔発行責任者〕三浦孝司

特集 自然栽培シリーズ

第2回

自然栽培で広がる人々の多様な可能性

むもんでは自然栽培に力を入れて取り組んでいますが、
それには理由があります。私たちは自然栽培の活動を通して
大切なことに気がつきました。
シリーズ2回目の今回は、
人の働き方についての気づきをご紹介します。

前号では、自然栽培では植物が持っている自然の力を引き出すために、細やかな働きかけが必要であることを紹介しました。作物の生育状況に合わせたこまめな除草作業が必要になりますし、機械で一律に処理することが難しいために人の手で行う工程が多いのも特徴です。手間暇かかる栽培だからこそ、たくさんの多様な役割と同時に助け合いの輪が生まれました。

自然栽培で広がるさまざまな役割

田んぼのわら集め

畑に散らばったわらを集める仕事ですが、農家の方が一人で行うと、相当な時間と労力がかかります。ただ運ぶだけの簡単な仕事なので、むもんでは重度の利用者さんが大活躍しています!大勢で行けば、何日もかかる仕事も半日で終わらせることができ、農家の方からも喜んでもらっています。

田んぼ除草

一般的な農業では薬で除草をするので、田んぼの草取り作業というものはあまりありませんが、自然栽培ではとても重要な仕事です。一つのことに集中するのが得意な方が力を発揮しています。

ほのぼのと・・・

毎日変化する自然の姿から感じられる刺激は多くあります。畑に出ると、気持ちもリフレッシュします!

畑の草取り

日々の主な仕事です。草を取る人、取った草を運ぶ人など、それぞれが得意なことを役割として行っています。

種まき

種を蒔く人と、種を持ってついていく人。こんなふうに得意なことを活かしたチームプレイで、いろんな仕事ができます!

地域にも広がる助け合いの輪

地元小学校の先生　田植えボランティア

農業体験は子どもたちにとって貴重なものですが、農家の圃場では迷惑になってしまうことが多く、子どもたちがのびのびと学べる場は多くありません。その中で受け入れてもらえることはありがたいです。子どもたちの中には初めて田んぼに入った子も多く、生の体験を通してさまざまな感動や気付きを得られました。農業の盛んなこの地区でも休耕地が増えていることなど、地域の課題も知ることができ、この繋がりをきっかけに、学びが広がっています。

地域住民　勝山さん

サラリーマンとして働きながら、自然栽培の農業に取り組んでいます。むもんから農機具を借してもらった際はとても助かりました!普段は手植えで1ヶ月近くかかってしまう田植え作業ですが、むもんから借りた田植え機のおかげでとても早く終わりました。そのお礼に、田植えの手伝いなどさせていただきました。助け合って農業ができるこのような関係性を、これからも続けていきたいです。

農業従事者　みどりの里　野中さん

むもんとは、同じチームの一員だと思って私の農場で働いてもらっています。障がいを持った方たちにはできないことも多くありますが、やり方次第で農場には彼らの力が生きる仕事がたくさんあります。また障害を持った方が農場に入ったことで、職場の雰囲気が温かく楽しいものに変化しました。これからも、お互いの困っていることを補い合ったり、B級品の加工販売を任せたりという、助け合いながら高め合う関係性でやっていきたいです。

すべての人に役割がある…日本が目指す働き方とは？

日本では超高齢社会を迎えるに伴い、人々の働き方と社会保障のあり方が大きな課題となっており、「働き方改革」等と言われ盛んに議論をされています。長時間労働に苦しむ人々が存在する一方で、働きたくても職に就けない様々な事情を抱えた人々が増大するという、バランスの悪い社会になってしまっているのです。働きたくても働けない人々とは、いわゆる「高齢者」「障がい者」だけではなく、介護や子育てで時間がとれない人や引きこもり、発達障害など、それぞれに様々な事情を抱えているようです。働く時間や形態、仕事の内容など、それぞれの事情に合った、柔軟な働き方が社会に求められていると言えます。

自然栽培は、障がい者や地域のお年寄りなど、いわゆる一般的な就労が難しい人々に対して、地域とつながるきっかけを作り役割を生み出しやすいということに、私たちは気づきました。自然栽培では肥料を入れない代わりに、人の手を入れます。手間暇かかるからこそたくさんの人の力が必要になります。またそうした協力を通して生まれた「つながり」は、地域社会にとって重要な意味を持つものだと感じています。これからの日本が目指す働き方のヒントが、ここにあるのではないでしょうか。

私たち福祉職が最終的に目指しているものは、すべての人が幸せに暮らせる社会の実現です。自然栽培によって、社会に人々の幸せな生き方を広めることができるかもしれない…。そんな可能性を感じると、なんだかワクワクするんです!

自然栽培は、それぞれの人の力を大切にした働き方を可能にします。

教えて ドクターM!

私たちの暮らしに関わること、
環境のこと、様々な疑問を
興味津々ムモンガが
ドクターMに聞いちゃいます。

ムモンガ
無門の裏山に生息する
モモンガの妖精。
自然栽培で作った
野菜や果物が大好物。

ドクターM
この道30年の
自然栽培博士。
トレードマークは頭の M。

今回のテーマ「ミツバチ」

花の密を集めて私たちの食べるはちみつを作ってくれるミツバチ。実はミツバチは自然界で重要な役割を担っていてミツバチが居なくなると人類も絶滅するなんて言われています。そんな私たちの生活に欠かすことのできないミツバチについての疑問を聞いてみました。

Q.1 ミツバチはどんなお仕事をしているの？

A. 野菜や果物が実をつけるのに重要な役割を担っておるんじゃ

ミツバチは花の蜜を集めるのと一緒に植物の受粉を助けてやる役割があるのじゃ。実際には風の力を使って花粉を飛ばす植物やミツバチ以外にも受粉の手助けをする虫や動物はいるのじゃが、ミツバチほど効率よく花粉をまとい次から次へと花から花へ移動する動物はいないのじゃ。

一説によるとミツバチが絶滅すると人類は4年で滅ぶなんていわれとるんじゃが、これはミツバチがいなくなると野菜や果物が出来なくなり自然界の食物連鎖が大きく乱れるためなんじゃな。

Q.2 ミツバチが絶滅の危機ってホント？

A. ミツバチの数が減少し世界的に問題になっておるぞ

年々ミツバチの数は減少しているというデータがあってじゃな、アメリカやヨーロッパでは一夜にしてセイヨウミツバチが大量に失踪するという現象が発生し問題となっておるんじゃ。その原因の一つに考えられているのが「農薬」じゃ。

特にネオニコチノイド系の農薬は人体に影響はないが、薬の成分を植物が吸って、その蜜や花粉によってミツバチが死んでしまうような昆虫に対しては致死性が高いものなんじゃ。海外ではすでに使用禁止になっている国も多くあるんじゃがな。

**じゃあ、なるべく農薬を使わずに
ミツバチにとっても 安心・安全に暮らせるように、
僕たちが守っていかないといけないね。**

ヴェルブリッツ 畑でラグビー

7月14日(土)に、トップリーグで活躍するラグビーチームトヨタ自動車「ヴェルブリッツ」の選手とスタッフが来て、むもんの畑のかぼちゃ収穫を行った。その後ラグビー体験として、パスなどを披露してくれた。

「無肥料・無農薬の自然栽培野菜は、安心安全であることはもちろん、野菜本来の味や栄養を損わないんです。」常務理事阪田の説明が終わると、目の前に広がる畑でかぼちゃの収穫がスタートした。

「全部とるぞー！」収穫は大きな掛け声で始まった。ボールの代わりにかぼちゃ（くりゆたか・バターナッツ）を使った連携で、次々にトラックに積み込まれていく。パスの連携の中には障害福祉課の廣濱さんや無門福祉会の利用者、職員、子供たちまで加わり、畑の端に行けばいくほど長いパスリレーになっていった。利用者からは「ラグビー選手になったみたい」と喜びの声が聞かれた。たくさんの収穫に見えたが、わずか45分ほどで収穫し終え、トラックにきれいに並べられた。その様子を写真に収めながら、ラグビー選手たちのパワーを感じずにはいられなかった。

アスリートにとって食事は自分のパフォーマンスに直接影響する大切なもの。チームに栄養士がいて、食事の量や質はきっちり管理されているという。食についても北川選手は「量よりもバランス。食事の量は若い時には大切だけど、今はとにかくバランスの摂れた食事をこころがけています。」とこだわりを語る。休みの日であってもそれは変わりがないという。ただ食材へのこだわりまでは正直意識できていなかったため、今日の出会いが良いきっかけになると語ってくれた。

その後むもんカンパニー青い空にてラグビー体験が行われた。むもんの利用者や子どもたちが参加し、選手からのパスを受けてターゲットに入れる体験を行った。たくましい選手たちと真近に接する、子どもたちのドキドキ感が、こちらにも伝わってくるようだった。

今回のイベントは、「チームワークでかぼちゃ収穫」と題して中日新聞にも掲載された。この交流は、2019年に行われるラグビーワールドカップの振興も兼ねている。豊田スタジアムは、ワールドカップの開催会場の一つとして決定しており、豊田市では街をあげて応援する気運を高めていきたい考えだ。豊田市の事業所である無門福祉会として、自然栽培の食材をアスリートに食べて頂き、勝利につなげてもらえるのなら、これほど喜ばしいことはない。アスリートの体づくりを支える一翼を担うことができればと、願うばかりである。

※ラグビーワールドカップ
4年に1度行われる、15人制ラグビー世界王者決定戦。ラグビーワールドカップは、夏季オリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ規模となる、世界三大スポーツイベントのひとつと言われている。

笑(えみ)をたずねて

好きなこと、頑張ってること、得意なこと…
あなたが大切にしていることは何ですか？
無門福祉会の利用者の方を訪ねて
お話を聞かせてもらいました。

vol.1

兼子 郁代さん

豊田市出身。無門福祉会と関わって約30年。現在はグループホームに入居し、清掃部門のスタッフとして活躍中。

「豊田市は役所が綺麗で羨ましい」と市外の人から言われることがある。その美しさを保つために働いている方にお話を伺った。

豊田市役所東庁舎一階の清掃業務を請け負っているのが、無門福祉会の清掃部門だ。兼子郁代さんは、２０１５年からそこで清掃員として働いている。フロアのモップがけ、窓拭き、各部屋の掃き掃除にトイレ掃除と、一日のスケジュールはぎっしりと詰まっている。「きれいにならなきゃ意味がない」を合言葉に、三人のスタッフで分担して清掃を行っている。

「一人でも休んでしまった時は大変です。」と話す兼子さん。勤めはじめた頃は自分の仕事をこなすことで精一杯だったが、清掃を続ける中で「こうした方が良いのでは？」と思うことを無門福祉会の職員に提案するようになった。鏡や窓を拭くとき、素材の違う二枚の雑巾を使用するのも兼子さんのアイデア。大きな窓ガラスが多い東庁舎の清潔さは、そんな工夫によって保たれている。

人の出入りが多い場所での清掃はお客様との接触が多く、初めはその対応に戸惑ってしまうことも多かったそうだ。経験を重ねた今は、お客様にぶつからないよう意識した動きを心がけている。声をかけられることも増えたという。「『綺麗にしてくれてありがとう』『いつも頑張ってるね』という言葉をかけられるときが、仕事をしていて一番嬉しい。」と話してくれた。

休日は映画を観に行ったりなど、外に出かけることが多いそうだ。お寺巡りが趣味で、最近までは「知多四国八十八箇所」巡りに夢中になっていた。「お寺の良いところは？」と尋ねると、「全部！」と即答。今月も岡崎の薬師寺に出かけるとのこと。そして、出かけ先で見つけるとつい買ってしまうという可愛い巾着袋が、出勤用のリュックサックにもぶら下がっていた。

これからも清掃の仕事を続けていきたいという兼子さん。市役所の他に福祉会館で勤務する日もあり、複雑な建物の中を時間内に清掃できるよう研修中だ。

映画も好きな兼子さん。「今 KiTARA でやってる映画は…」と話す姿が楽しそう。

兼子さん考案の「窓拭き二刀流」

ピンク色の巾着袋がお気に入り。

「お客さんが、綺麗な所だな、また来たいな、と思ってくれたら嬉しい。」そんな優しい思いのこもった清掃が、そこに訪れる人々を笑顔にしてくれているのだろう。

耕Life掲載記事

人生を耕すためのライフスタイルマガジン

豊田市を中心に15,000部発行・配布されているフリーペーパー「耕Life」に当記事が掲載されました。より多くの方々に「むもん」の活動を知っていただけることを願っております。

きらめき時間

まだまだ、新しい発見の日々

安藤　和年

私は畜産専門の大学を卒業後、飼料会社に入社して、飼料の研究をしたり、様々な現場に携わり、長い間畜産の現場で働いてきました。

無門に誘っていただいた時には、そろそろ引退してゆっくりしたいと考えていました。それでもお話を受けたのは、また新しい興味が湧いてきたからでした。障害を持った方と動物との触れ合いには、情緒の安定などの効果があると言われているのを聞いていましたので、それを自分が実践してみたいと思ったのです。

養豚事業での豚との触れ合いは、まさにそれを証明してくれるものであったと思います。ある利用者の方は、人と接するときよりも自然に動物に接しているようで驚きました。私には、まるで動物と会話しているように見えます。動物たちにとっても、遊び相手になったり愛情を感じられたりと、良い効果があり、生産性にもつながる部分があったと思います。

畜産は人の生活の役にたつ産業で、生き物が誕生して出荷されるまで、餌から排泄物までの生命活動の全てに携わります。生き物が生きるとはどういうことなのか、誰もがみんな同じ巡りの中で生きているということを、頭だけでなく全身で感じられると思います。障害を持った方にとっても、それはとても大きな気づきになるのではないでしょうか。そのことを感じてもらえるように今後も働いていきたいです。

利用者さんと一緒に畜産の仕事をしていると、心が豊かになり、この歳になって得るものが沢山あります。私はまだまだですが、人生経験豊かな人が引退後にこういった場で働くことは、とても良いことではないでしょうか。私も身体が続く限り、精一杯皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

わたしとむもん 第2回

「育つ力を信じて」

むもんカンパニー青い空
藤井史子

むもんに入社後、結婚にて退社。平成15年にヘルパーとして復帰。現在は正社員としてみどりの里で農業を担当している。復帰前と今の仕事の姿勢の変化について伺いました。

最近農業で利用者と仕事をしていて私は大きく変わったことがあります。きっかけは1人の利用者でした。彼女はゆっくり物事を考え、動きもゆっくりです。それでも自分で考えて、時には私では思いつかないような考え方や、やり方をして、こちらを驚かせてくれます。その時の彼女の表情が忘れられないです。彼女の中で苦しかったこと、辛かったこと、彼女との思い出が蘇り、そして今一緒にいることをとても幸せと感じることができます。つまり変わったことは、本人の力を信じるということです。

私が無門に入ったころは、出来ないことを出来るようにするという考え方が強い時代でした。復職したときに時代は少しずつ変化し、強みをはぐくむことが要素として強くなっていて、当時を思い出すと母親のような気持ちで、先回りして助け船を出すような仕事の仕方をしていたように思います。

仕事に復帰して数年が経ち、娘に進路のことでアドバイスをしていると、「また自分の考えばっかり」と言われた時に、私の心配性な性格から、子供に対して良かれと思って、失敗体験等を話していたつもりが、どこかで否定的に考えていたのが伝わっていました。

そしてそのスタンスは大きく仕事にも影響していたのかと思い返しました。そうするとたくさん出てくる思い出の波状攻撃。「チャレンジすることを見送った…。」「職員が助けてあげればいいか…。」と、キリがありません。

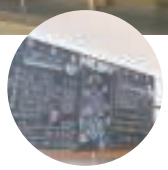
仕事で実感している利用者本人の成長が、自分の過去の子育て体験とリンクして悲観したこともありましたが、今自分の子供たちをみたら、自分の力で乗り越えてくれたと実感できます。私は本当にたいしたことはできないけれど、これからもその人がどう感じて、考えて行動するのかを楽しみながら、本人の力を信じて農業にも向き合っていければと思います。

MUMON

Work Friends!

どんぐりの湯 どんぐりカフェ

── むもんに縁のあるお店や団体を紹介します ──



Concept!

コンセプト

自然に囲まれた温泉施設でゆっくりのんびりくつろげる空間を提供し、温泉につかった後にホッと一息つける場所としてどんぐりの湯に併設して作られました。道の駅「どんぐりの里」にドライブやツーリングに来るお客様や地元の常連のお客様など県内・県外からもたくさんのお客様にご来店いただいています。

むもんとの縁

クラブハリエとのコラボ商品と聞き興味を持って、みんなで試食してみたら「美味しかった」と好評だったそうです。無門福祉会の取り組みや頑張っていることの力になれればとのことで、販売して頂けることになりました。

むもん商品の評判

常連のお客様でコーヒーと一緒に買われる方が多く、美味しいからとリピーターが増えているそうです。子供たちがパッケージのかわいさに手を取って頂いたり、地元の方は手土産に買われる方もいるそうです。

recommend!

お勧め情報

フレッシュブルーベリージュース

生のブルーベリーの果実をたっぷりと使用したフレッシュジュースで程よい甘みと酸味ですっきり飲めて、入浴後のほてった体に最高です。季節ごとに旬のフルーツを使用しているので、その時の一番おいしい旬の味わいが楽しめます。

Shop info!

どんぐりの湯 どんぐりカフェ

店舗情報

住　所 豊田市武節町針原22−1
休 館 日 毎週木曜日（祝日の場合は翌日）
電話番号 0565-82-3135
営業時間 〔温 泉〕平　日…10:00〜21:00
土日祝… 9:30〜21:00（最終受付 20:00）
〔カフェ〕平　日…10:00〜17:00（LO 16:30）
土日祝… 9:30〜18:00（LO 17:30）

編集後記

とても暑い日が続いていますね。こんな季節の除草作業は、やってもやっても延々と続くように感じてしまいます。

支援も同じで、より良くなるようにと思って働きかけていても、すぐに目に見える成果が感じられないことがあります。地道な日々の作業の繰り返しに、意味があるのかと私も時々思うことがあります。だからいつも、みんなで夢を語ってやっていきたいと思っています。一生懸命に取り組んだことは、大きな目で見れば成果に繋がっているはずです。広報も、私達が抱く夢や今までの成果を、みんなで確認できるものになればと願っています。

〔編集者……池田有紀子　桑原政裕　鈴木雅博　橋岡壮〕

無門福祉会
〒470-0376　豊田市高町東山7-43　TEL：0565-45-7883　FAX：0565-45-7886
E-mail：info@mumon-fukushi.net　Web：http://mumon-fukushi.net/